

事業No	事業名	観光事業費				担当部署	部名	産業経済部
							課名	観光・ブランド課
114							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 1 章 新しい価値を生み出すまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 魅力ある観光の振興					目	観光費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	誰を・何を	射水市の名所・旧跡等の観光施設、伝統的な祭やイベント等並びに食を始めとした特産品等
	意図	どのような状態に	「射水」の認知度の向上と射水市への誘客に努め、交流人口の増大による地域経済の活性化を図る
事業内容	手段	どのような方法で	射水観光ナビによる情報発信、射水市観光マップ・ポスターの作製並びに首都圏を始めとした大都市圏等、県内外での観光物産展等での配布や出向宣伝によるPR

補助金	類型区分			
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)	上限額

施設管理運営	施設名			管理形態	
	構造・階数			指定管理者名	
	建築年度	改修年度		指定管理期間	
	耐震の有無	延床面積		類似施設状況	
	民間施設状況				
	設備・規模				

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度		平成23年度			

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業No	事業名	観光事業費	担当部署	部名	産業経済部
114				課名	観光・ブランド課
				電話	82 - 1958

指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標	H 29 年度	
			目標	実績	達成率		最終目標	達成率
成果指標	利用者数 設定できる場合 (観光客入込数(1月～12月))	人	3,190,880	3,220,000	3,238,666	100.6	3,250,000	3,450,000
活動指標	射水市観光マップ作製枚数	枚	20,000	25,000	25,000	100.0	25,000	

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	2,239 千円	3,534 千円	57.8	2,048 千円
		人件費	408 千円	408 千円	0.0	408 千円
		退職手当引当金相当額	60 千円	60 千円	0.0	60 千円
		事業コスト計	2,707 千円	4,002 千円	47.8	2,516 千円
	財源内訳	国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	2,707 千円	4,002 千円	47.8	2,516 千円
		当該事務従事職員数	0.06 人	0.06 人	0.0	0.06 人
		利用者1人当たりコスト	0.00 千円	0.00 千円	45.7	
		うち一般財源ベース分	0.00 千円	0.00 千円	45.7	

評価項目	点数	説明
必要性	4	市の魅力の認知度を向上させるためには、県内外に対しあらゆる手段や機会を活用し、情報発信する必要がある、その中でもHPの活用や観光マップ等の配布は特に必須である。
有効性	3	H22の観光客入込数が、目標値の0.6%増、対前年比で1.5%増となっていることから一定の効果があったものとする。
達成度	4	観光マップに加え観光PR用ポスターを作製した。
効率性	4	事業コストについて、事業費や人員等、絞り込んだものとなっている。

評価結果 (1次)	A	現行(計画)どおり事業を進めることが適当	評価結果 (2次)	C	事業規模・内容の見直し又は実施主体の見直しが必要
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント		
少子高齢化に伴う人口減少時代において、地域間競争が求められるなか、射水市を県内外にPRし、本市への誘客による、交流人口の拡大を図ることが、地域経済の活性化につながる。このことから、今後、(社)射水市観光協会と、これまで以上の連携強化を図りながら、観光の振興に努めることとする。			観光PRは重要であり必要な事業であるが、現在の実施内容では有効性に疑問があるため、観光マップ及びポスターの内容や配布方法の見直しを含め、誘客につながる方策を検討されたい。		

事業№	事業名	越中だいもん凧の会補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(観光推進費)					課名	観光・ブランド課
115							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 1 章 新しい価値を生み出すまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 魅力ある観光の振興					目	観光費
実施計画掲載		無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	交付先	越中だいもん凧の会
	意図	補助目的	凧文化を通じ、市内及び全国各地域との交流を図るとともに、射水市のPRを積極的に行う。また、凧揚げを通じて子供達の空への憧れや夢と創造性を養うとともに、凧作り、凧揚げの伝統継承に繋げる。
事業内容	手段	主な活動	越中だいもん凧まつりの実施、全国凧揚げ大会への参加、市内外の凧作り教室への支援及び講師派遣を行い、凧作り、射水市のPR活動を行う。

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分		内容(基準単価・補助率等)				上限額
		定額補助						千円
		定率補助						
	○ その他						上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	

施設管理運営	施設名				管理形態			
	構造・階数				指定管理者名			
	建築年度		改修年度		類似施設状況			
	耐震の有無		延床面積		民間施設状況			
	設備・規模							

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度				

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業No	事業名	越中だいもん凧の会補助金 (観光推進費)	担当部署	部名	産業経済部
115				課名	観光・ブランド課
				電話	82 - 1958

指 標 名		単位	H21年度 実績	H22年度			H23年度		
				目標	実績	達成率	目標		
成果指標	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	凧関連PR及び凧揚げ大会参加回数 (市内)	回	12	10	6	60.0	10		
	凧関連PR及び凧揚げ大会参加回数 (市外)	回	30	20	24	120.0	20		

事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
事業費・人件費	直接事業費	360 千円	330 千円	▲ 8.3	300 千円
	(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
	人 件 費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
	退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	事業コスト計	594 千円	564 千円	▲ 5.1	534 千円
	国 県 支 出 金	千円	千円		千円
	そ の 他	千円	千円		千円
	一 般 財 源	594 千円	564 千円	▲ 5.1	534 千円
当該事務従事職員数		0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
利用者1人当たりコスト		-	-		
うち一般財源ベース分		-	-		

評価項目	点数	説 明
妥当性	4	市内外の各種団体からの要望に答え講師を派遣し講習を行うなど凧を通した幅広い活動により、射水市を代表するまつりの一つである越中大門凧まつりを中心とした凧文化の伝承を通し、地域間交流の活性化に寄与している。
有効性	4	年間30回程度の凧づくり教室、県外凧揚げ大会への参加、凧展示などを通し、広く市民をはじめ市外の方々にも射水市の凧文化を周知することにより、射水市全体のPRと凧を通した社会教育的な観点から市民に対する福祉に貢献している。
効率性	4	繰越金など余剰金の割合も少なく効率的に補助金が機能しているものと考えられる。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
今後はさらに活動範囲を広げ、より多くの市民をはじめ各種団体に射水市の凧文化の継承発展に繋げていくよう努力しなければならない。				

事業№	事業名	観光客誘致PR事業補助金				担当部署	部名	産業経済部
		(観光推進費)					課名	観光・ブランド課
116							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 1 章 新しい価値を生み出すまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 魅力ある観光の振興					目	観光費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等		無						

事業目的	対象	交付先	射水商工会議所青年部
	意図	補助目的	射水市の観光資源を県外へPRすることにより射水市への誘客を図る
事業内容	手段	主な活動	各都市で開催されるイベントに参加し、観光PRや特産品の販売を行う 平成20年度・・・名古屋城宵まつり(愛知県名古屋市) 平成21年度・・・第18回森將軍塚まつり(長野県千曲市) 平成22年度・・・ゆるキャラRまつりin彦根(滋賀県彦根市)

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)				上限額	
		定額補助	観光PR活動にかかる経費				千円	
		定率補助	平成20年度・・・180,000円 平成21年度・・・162,000円 平成22年度・・・150,000円				上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	
	○	その他						

施設管理運営	施設名				管理形態	
	構造・階数				指定管理者名	
	建築年度		改修年度		類似施設状況	
	耐震の有無		延床面積		民間施設状況	
	設備・規模					

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度				

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業No	事業名	観光客誘致PR事業補助金 (観光推進費)	担当部署	部名	産業経済部
116				課名	観光・ブランド課
				電話	82 - 1958

成果指標	指標名	単位	H21年度 実績	H22年度			H23年度 目標		
				目標	実績	達成率			
	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	PRイベント参加数	回	1	1	1	100.0	1		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	162 千円	150 千円	▲ 7.4	135 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	396 千円	384 千円	▲ 3.0	369 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	396 千円	384 千円	▲ 3.0	369 千円
		当該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利用者1人当たりコスト		-	-		
	うち一般財源ベース分		-	-		

評価項目	点数	説明
妥当性	4	射水市への観光客誘致のため、県外でPRを行うことは必要である
有効性	2	姉妹都市や集客力のあるイベントに参加することで、より多くの誘客が見込める
効率性	3	市補助金以外に射水商工会議所青年部の本会計からの繰入金で事業を実施している

評価結果 (1次)	C	補助基準の見直しが必要	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
今後、事業実施あたって具体的な目標を設定し、より魅力的・効率的な事業内容となるよう促す				

事業№	事業名	内川モニターツアー事業(水辺のまちづくり事業)				担当部署	部名	産業経済部
		(観光推進費)					課名	観光・ブランド課
117							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 21 年度	終了年度	平成 23 年度	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 1 章 新しい価値を生み出すまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 魅力ある観光の振興					目	観光費
実施計画掲載		無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等								

事業目的	対象	交付先	(社)射水市観光協会
	意図	補助目的	「水辺のまち夢プラン」における「内川ミュージアムタウン」の実現に寄与する。
事業内容	手段	主な活動	㈱新湊観光船の遊覧船、観光ボランティアによる観光ガイド等を活用し、県内外在住者、移住交流施設利用者、県内教育機関、各種団体を対象としたモニターツアーを実施する。さらには旅行業者、広告代理店等を対象とした観光素材体験を行う。いずれもアンケートを実施し、今後の内川周辺の観光振興の参考とする。

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)				上限額	
		定額補助	水辺のまちづくり推進事業補助金と併せて補助する。				千円	
		定率補助	(参考) 富山県水辺のまちづくり推進事業補助金				上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載	
○	その他	補助率: 市町村補助額と同額以内						

施設管理運営	施設名				管理形態	
	構造・階数				指定管理者名	
	建築年度		改修年度		指定管理期間	
	耐震の有無		延床面積		類似施設状況	
	設備・規模					

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度				

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業№	事業名	内川モニターツアー事業(水辺のまちづくり事業) (観光推進費)	担当部署	部名	産業経済部
117				課名	観光・ブランド課
				電話	82-1958

成果指標	指標名	単位	H21年度 実績	H22年度			H23年度 目標		
				目標	実績	達成率			
成果指標	利用者数 設定できる場合 (内川モニターツアー参加者数)	人	1,609	2,340	2,223	95.0	2,260		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	1,500 千円	1,500 千円	0.0	1,500 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	816 千円	816 千円	0.0	816 千円
		退職手当引当金相当額	120 千円	120 千円	0.0	120 千円
	財源内訳	事業コスト計	2,436 千円	2,436 千円	0.0	2,436 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	2,436 千円	2,436 千円	0.0	2,436 千円
		当該事務従事職員数	0.12 人	0.12 人	0.0	0.12 人
		利用者1人当たりコスト	1.51 千円	1.10 千円	▲ 27.6	
		うち一般財源ベース分	1.51 千円	1.10 千円	▲ 27.6	

評価項目	点数	説明
妥当性	4	県の「水辺のまち夢プラン」の実現を目指し、内川周辺の観光地としての魅力を発信するために事業を推進してきた。観光協会を中心とした観光地づくりを目指しており、観光客の増加につながるこの事業においては公益性も担保されている。
有効性	4	観光地として魅力を発信するには、補助することが効果的である。実際にH21年度からH22年度にかけてこの事業による誘客者数は増加しており、地域経済の活性化につながる施策としては有効である。
効率性	4	県の「水辺のまち夢プラン」に内川が位置づけられており、県の水辺のまちづくり推進事業補助金は、総合的にこの地域の魅力を発信しうる補助金であり、市の補助金と併せて活用することにより事業スケールが保たれている。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
今年度で水辺のまちづくり推進事業補助金の補助対象期間は終了することから今後はさらに観光客誘客につながる観光客のニーズに応じた事業内容を検討し、着実に観光客の増加に繋げていく施策を考えていかなければならない。				

事業No	事業名	産業展示館地場産品常設展示負担金				担当部署	部名	産業経済部
		(特産物奨励費)					課名	観光・ブランド課
118							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 17 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 3 部 元気で活気あふれるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 1 章 新しい価値を生み出すまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 魅力ある観光の振興					目	観光費
	実施計画掲載	無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等		無						

事業目的	対象	交付先	財団法人富山産業展示館	
	意図	補助目的	地場産品の紹介及び販路拡大	
事業内容	手段	主な活動	年間を通して、射水市並びに県内市町村の特産品を一堂に会して、富山産業展示館にて常設展示し、特産品のPRを行う。	

補助金	類型区分	団体運営費補助		○	事業費補助	施設等整備費補助		政策的補助
		格差是正補助			利子補給	その他()		
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)				上限額	
		定額補助	常設展示にかかる管理費負担 平成20～22年度・・・134,400円				千円	
		定率補助						
○	その他					上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載		

施設管理運営	施設名			管理形態		
	構造・階数			指定管理者名		
	建築年度		改修年度		類似施設状況	
	耐震の有無		延床面積		民間施設状況	
	設備・規模					

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	整備内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度				

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業№	事業名	産業展示館地場産品常設展示負担金 (特産物奨励費)	担当部署	部名	産業経済部
118				課名	観光・ブランド課
				電話	82 - 1958

成果指標	指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標		
				目標	実績	達成率			
成果指標	利用者数 設定できる場合 ()	人							
	展示特産品数 (射水市)	種	99	100	85	85.0	100		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	134 千円	134 千円	0.0	134 千円
		(補助金交付件数)	(1 件)	(1 件)	0.0	(1 件)
		人件費	204 千円	204 千円	0.0	204 千円
		退職手当引当金相当額	30 千円	30 千円	0.0	30 千円
	財源内訳	事業コスト計	368 千円	368 千円	0.0	368 千円
		国県支出金	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	368 千円	368 千円	0.0	368 千円
		当該事務従事職員数	0.03 人	0.03 人	0.0	0.03 人
	利用者1人当たりコスト		-	-		
	うち一般財源ベース分		-	-		

評価項目	点数	説明
妥当性	4	特産品PRの手段として有効である
有効性	3	年間を通して多くの来館者がいる施設での展示となっている
効率性	4	年間を通して催し物が開催されるところでの特産品の展示となっている。

評価結果 (1次)	A	現行どおり補助することが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針 (改善内容)			評価委員会のコメント	
年間を通したイベントの開催等、来館者が多数いることから今後とも本施設での展示によるPRに努めることとする。				

事業No	事業名	川の駅維持管理費				担当部署	部名	産業経済部
							課名	観光・ブランド課
119							電話	82 - 1958
事業期間		開始年度	平成 21 年度	終了年度	-	予算科目	会計	一般会計
総合計画	施策の大綱	第 4 部 快適で安心して暮らせるまち					款	商工費
	政策名(章)	第 2 章 快適で利便性の高いまちづくり					項	商工費
	施策名(節)	第 2 節 個性あるまちづくりの推進					目	観光費
実施計画掲載		無	頁	個別計画				
根拠法令・要綱等		射水市川の駅新湊条例、同条例施行規則						

事業目的	対象	誰を・何を	川の駅新湊の施設の維持管理
	意図	設置目的	内川の歴史を生かしたまちづくりを目的に、市民の交流の場として活用するとともに、地場製品の展示販売等による射水ブランドの情報発信を行い、水辺から市街地への玄関口としての観光拠点とする。
事業内容	手段	主な活動	指定管理者制度を活用してNPO法人水辺のまち新湊に川の駅新湊の管理を委託をする。 業務内容: 施設・設備の維持管理業務、施設来館者の受付・使用の許可業務、 施設利用促進に関する業務

補助金	類型区分			
	補助内容	補助区分	内容(基準単価・補助率等)	上限額

施設管理運営	施設名	川の駅新湊			管理形態	指定管理		
					指定管理者名	NPO法人水辺のまち新湊		
	構造・階数	鉄筋コンクリート造・2階建			指定管理期間	平成 21 年度 ~ 平成 23 年度		
	建築年度	平成 21 年度	改修年度	年度	類似施設状況	県施設	市施設	
	耐震の有無	有	延床面積	558.80 m ²	民間施設状況			
	設備・規模	1階 うまいもん展示販売コーナー、観光ボランティア室、事務室、曳山展示室、トイレ 2階 カフェレストラン、曳山ギャラリー、カフェバルコニー						

施設等整備	総事業費		財源内訳(千円)	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		平成21年度	平成22年度	平成23年度				
	整備内容							

その他	特記事項等	
-----	-------	--

事業No	事業名	川の駅維持管理費	担当部署	部名	産業経済部
119				課名	観光・ブランド課
				電話	82 - 1958

	指標名	単位	H21年度実績	H22年度			H23年度目標	H 29 年度	
				目標	実績	達成率		最終目標	達成率
成果指標	利用者数 設定できる場合 (川の駅新湊 入館者)	人	55,087	42,000	35,088	83.5	42,000	37,600	
活動指標	開館日数	日	340	346	346	100.0	346		

事業費・人件費	事業費		平成21年度決算	平成22年度決算	伸率	平成23年度予算
	事業コスト	直接事業費	13,192 千円	9,601 千円	▲ 27.2	9,682 千円
		人件費	476 千円	476 千円	0.0	476 千円
		退職手当引当金相当額	70 千円	70 千円	0.0	70 千円
		減価償却費相当額	3,689 千円	3,689 千円	0.0	3,689 千円
		事業コスト計	17,427 千円	13,836 千円	▲ 20.6	13,917 千円
	財源内訳	国県支出金	千円	千円		千円
		施設使用料	千円	千円		千円
		その他	千円	千円		千円
		一般財源	17,427 千円	13,836 千円	▲ 20.6	13,917 千円
	当該事務従事職員数		0.07 人	0.07 人	0.0	0.07 人
	利用者1人当たりコスト		0.32 千円	0.39 千円	24.6	
	うち一般財源ベース分		0.32 千円	0.39 千円	24.6	

評価項目	点数	説明
必要性	4	漁業のまちとして独特の雰囲気醸し出す、内川周辺の賑わいづくりの拠点施設として重要な施設である
有効性	3	来場者が、目標値を若干下回っているものの、案内看板を設置する等して誘導対策に努めているところがある。
達成度	4	施設設備の維持管理について特に大きな問題もなく、定期清掃日を除いて開館することができた。
効率性	4	他の事業を活用する等、事業効率の向上を工夫しながら、施設の管理運営に取り組んでいるところである。

評価結果 (1次)	A	現行どおり管理運営を行うことが適当	評価結果 (2次)	
評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)			評価委員会のコメント	
引き続き指定管理者制度を活用して、施設の維持管理の業務を委託するとともに、あらゆる機会を活用して賑わいづくりに努め、来館者の増加を図る。				